

放課後デイサービス研修会

2021年12月

児童発達支援事業 パーチエ

田村一美

# 障がいを持つ子どもたちの放課後

38歳になった我が子の6歳の時

学童保育の対象から外されていた時代があった

学童保育の運営委員から

「障がいを持つ子どもを持ったのなら仕事を辞めたらどうですか・・・」

学生さんと一対一ではなく、

同じ仲間と集団で活動することが喜びに・・・

障がい児学童をつくる

# 個別支援計画をつくるにあたって

## 大事にしたいこと

---

### 1. こどものことを知る

発達・その子の生活・障がいの特性  
こどもの教育環境

### 2. 保護者の願いを知る

こどものことをどう受けとめているのか？  
子育ての悩みや、子育てする困難さがどこにあるのか  
どんなこどもに育ててほしいのか、  
放課後デイへの願い  
お母さんとお父さん、また祖父母はどんなふう  
こどもの障がいを受けとめているか

# 1. こどもを知る

---

発達や障害特性を知る

・・・発達検査、診断、生育歴(保育・療育の経過)、



発達検査や診断結果、就学支援シートや療育施設からの情報を得る

こどもが好きなこと、不安になること、不安になったときの表現は？

苦手なこと(身体・手の操作・お友達関係など)、コミュニケーション手段は

どんなことに感覚過敏があるか、過剰適応はないかなど

## 2. 保護者の願いを知る 一番初めの出会いを大事にしたい

保護者のお話を丁寧に聞く

---

利用計画案(セルフプラン・計画相談のプラン)

- こどもの苦手を直したい？
- スキルを望む(運動・手先・コミュニケーションなど)
- こどもが学校以外の場でいろいろな経験をしてほしい
- 学童保育は人数が多くて、  
    小人数の場のほうが過ごしやすいのでは
- 学校で頑張っているので、ほっとできる、発散できる場
- 自信が持てる場になってほしい
- 家ではゲームばかりになるので・・・など

# パーチェの個別支援計画を立てるときの考え方1

---

◎ 目標はこどもがどんな自分になりたいと願っているかを考えることから。

例えば

保護者の願い「言葉がでてほしい」

「一人で遊ぶ。お友達と上手に遊べるように」

「お友達とトラブルが絶えないので

仲良く遊べるように」

「不器用なのではさみとか、はしを使えるように」

# お友達と楽しく遊びたいけれど 不安 その不安とは・・・

---

集団の大きさ？、お友達のスปีード感が不安？

まずは大人との関係を求めている？

甘えたい、話を聞いてほしい、

自分の好きなことに付き合ってほしい

遊びがわからない(ルール、お友達のごっこのイメージなど)

一人で好きなことをたっぷりしたい？

お友達と自分を比べて、できない自分が見える不安

# お友達とトラブルになる お友達に対してイライラしてしまう

- ・相手の気持ちがわかりにくい

相手も同じことを思っていると行動を強要してしまう。

- ・言葉の意図がつかめない、言語理解の弱さ
- ・勝ち負けに敏感、「一番」にこだわる発達段階
- ・感覚過敏から相手の声の大きさや距離感が不安
- ・学校で頑張りすぎていて、気持ちに余裕がない。などなど

どんな遊びだったら、どんなお友達関係だったら  
楽しく過ごせるか？

大人はどう対応するか、間に入ってどう遊びを援助するか



# はさみやテープ、はしを使うと 失敗する、失敗がいや！

どんな遊びだったら  
楽しんで道具を使えるかなあ  
身体の使い方は？

- ・好きなものを手掛かりに
  - ・同じくらいの発達の子と一緒に！  
達者な子を見ると「できない自分」をより強く感じる
  - ・上手下手がはっきりしない素材
- 出来上がりに上手下手を問わないでいい取り組み

身体や手先を使う経験値を高めそこで達成感をもち、  
自信につなげる。

# パーチェの個別支援計画を 立てるときの考え方2

◎困る行動をなくすためには？・・・

困る行動のなかに本人の悩みや願いは？

例えば

わざとものを投げたり、唾をはいたり、人をたたく  
一番にこだわる、お友達の作っているものを壊す

「やめなさい！ 投げないよ！

お友達をたたいたらダメ！」と叱ることを繰り返すの対応で、  
困る行動は終わるか？



考察

行動の裏にある本人の思いを知る

# ◎困る行動の裏には、本人が悩んでいることがある・・・

## 子どもの生活を知ることから～

---

### 1、保育園や幼稚園・学校の生活は？

1. 行事、園・学校での先生の対応、  
集団の中で本人が感じていること  
「お友達は上手、速い、かっこいいでも、ぼくは・・・」の  
比較の世界にいる  
「勉強がわからないけど、座っていなければならない」  
「ぼくはだめなんだ」と自傷行為をすることも

# ◎困る行動の裏には、本人が悩んでいることがある・・・

---

## 2、家族の状況

- ・シングル家庭で母が疲れている
- ・父母が高齢で子供のパワーに付き合えない
- ・普通学級に所属している、  
学習の遅れに焦りを感じている  
宿題に1時間半かけて母が付き添っている
- ・父母の関係
- ・コロナの関係

# 自我ってどんなふうに進達していくの？



苦手なこともあるけれど僕はこんなふうに頑張れた！と思える心、0か100ではない世界



①イヤイヤ！  
自分で！

②いっぱい！  
一番がいい！  
0か100、  
失敗はいや！

③大きい自分  
カッコイイ自分で  
ありたい。  
出番がほしい！



今のこどもの状態に対して、アセスメント  
(様々な情報から仮説を立てる)

本人の願いや

保護者の願いを実現するための

見通しをもち、支援計画を作る

(職員集団で共有)



実践をする



モニタリング

# 笑顔が見られる活動！！がカギ



活動への期待感



楽しい活動を「もっとやりたい」「もう一回！」  
と要求が高まる



その活動を一緒にできる人との関係ができる

私たちの仕事は、ひとりひとりにとって  
の楽しい世界を見つけ保障すること

# 利用計画から あるお母さんのねがい

日々健康で幸せを感じながら育ててほしい。  
自分のペースで一つ一つできる事を増やしながら、  
親子で成長を楽しんでいきたい。

